

岩井大

(WBCユースフェザー級シルバー王者三連覇)

ファイリピンからベルトを持ち帰った23歳

椎野大輝のWBCインター王者奪取(昨年10月29日パラワン島で11回KO勝ち)に続き、三迫ジムの海外ベルト狩りファイリピン遠征シリーズ、第2弾が行われたのは2月19日(於・サンタロサ)。今度は岩井大がWBCユース・フェザー級シルバー王座決定戦に出場した。

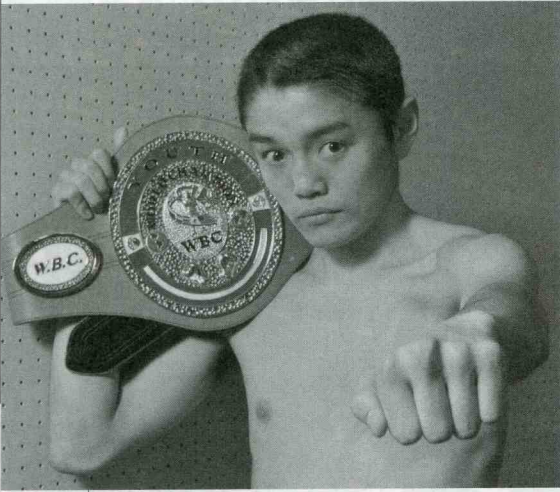
岩井は一昨年11月、当時ランク2位の松崎博保(協栄)を破ってファンを驚かせたが、ケガ、ジム移籍などで実に15カ月のブランク。ブランク明けの初戦、アウエー、東洋15位のデザイン・カグオンが相手と不利が予想された。

しかしあることが岩井はカグオンを7回TKOに仕留めてベルトとともに凱旋したのだ。

「ブランク? ずっと練習してました。僕はメンタルが弱いといわれていたので、実戦ができない分、本を読んだりしてメンタルの勉強をして本番に臨んだら、試合もスパーリングみたいにできました」と新王者。そして誰も岩井に期待する者などいない中で、「逆に燃えました。こういう逆境で勝つてこそ男だと。本当に楽しかったです」と大きな目を輝かせた。

ブランク中に強く思ったことがある。「好きだということが一番強い」——それを確認してから「ボクシングに嘘はつけないです。練習をさぼろうという感情すらわいてこない。それどころか、練習のアイデアがわいてきます。ボクシングって道具いらんないじゃないですか。だから日常すべてが練習になります。息抜き? 必要じゃない。ボクシングはまったくストレスになりませんから」

千葉・船橋生まれの幕張育ち。小中学校時代はいじめに遭った。しかし発起してしっかりとじめつ子に仕返して中学といじめを卒業。高校1年でジムに通い始めた。小3から中3までサッカー、空手をやっていたが体重が80キを超えて「動けるデブ」とあだ名されていたという。しかし陰では「動けるデブ」であるための努力もしていたという。「すべて必然、今あるためのプロ



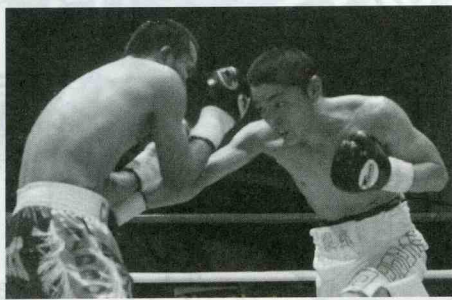
山口和也さん

(美術家、写真家)

故・小松則幸さんの写真集を刊行

昨年末に写真集『KOMATSU NORIYUKI YAMAGUCHI KAZUYA』を刊行したのが美術家にして写真家の山口和也さん。タイトルから知れるように、09年4月に急逝した元チャンピオン、小松則幸さんを追った写真集だ。

山口さんが生前の小松さんと出会ったのは9年前。OPBF王座



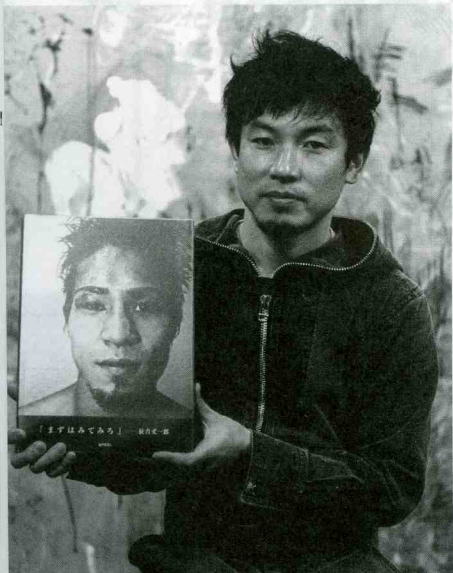
敵地で大暴れして王座獲得

セスなんだと思っています。ですからネガティブになることはありません。23歳にしてたりついた境地。その信念どおりに生きる。普段は人気ラーメン店「ドリルマン」(池袋西口)に勤務し、趣味は日曜日限定の食べ歩きだ。9勝5KO2敗。

初防衛戦を控えていた小松さんはピリリしていたという。張り詰めた空気のなかシャッターを押し、スタートしたふたりのコミュニケーションが、一冊の本になった。「世界チャンピオンになったら写真集を出そうな」という約束はかたちを変えたが、天国の小松さんも照れくさそうに喜んでいるのではないか。

写真集の前身は撮影を続けた6年間ぶんのなかから、山口さんが厳選している。トラッシュ中沼戦のリング、ボンサクレック戦の激しい流血、内藤大助戦を前にした検診風景……「ふだん我々が目にするボクシングのフアイト・フォトとはまた違う。写真集であり美術品のようにも感じられるのだ。」

山口さんは兵庫県高砂市生まれ。体育と美術がもともと得意で、京都造形芸術大学への進学を決めたのも「毎日が美術なら」という理由だった。絵描きといえは、キャンバスに向かっ……と連想するが、山口さんはまた異なる表現方法の人である。たとえば、いろんな人と1対1で画用紙にお互いを描き合う。現在は月に一度、ライブペインティング「描き合いっこ」音と落書き」を行っている。



ミュージシャンと1対1になり、相手の演奏を聞いて感じたことを山口さんがその場で絵にするのだという。「音を聞いて僕が線を引きますよね。その線を見て相手が音を出すんです」と、説明してくれた。

「描き合いっこ」の作品が絵画の全国公募展で大賞をとり、副賞でニューヨークに半年間滞在したこともある。美術留学の目的だったが生徒とは分らない。現地では日本画家の千住博氏と出会った山口さん、それが縁で氏の写真を撮ることになり、のちに写真集を出すまでに至った。あきれるのは、このとき山口さんはまったくカメラ素人だったことである。そして、せっかく写真を学んだのだからとなったとき、被写体として思い浮かんだのがボクサーだったのだ。

ボクシングを初観戦したのが辰吉丈一郎・セーン戦だった。「まぶしい光のような。パンチ以外の動き、間合いだとかさういったものがものすごくきれいに見えたんです」。これが山口さんのボクシングの原風景となっているようだ。「人と人の間にあるもの、1対1というのがモチーフなんです」機会があれば、ライブワークの「描き合いっこ」をボクサーと実現してみたいという。

ライブペインティングを終えた山口さん。手には小松さんとの写真集(山口さんのウェブ <http://www.ynoci.com>)